

農業における

働き手探しの新しい選択肢



「労働力募集アプリ」 導入ハンドブック

— 本冊子の利用イメージ —

- 対象者：地方公共団体や農業関係団体などで農業労働力確保を担当されている方々
- 利用場面：地域の農業労働力確保に関する検討会などにおける説明資料として活用

目次

労働力募集アプリを活用して、人材不足を克服するために	2
1. 労働力募集アプリの概要	3
・労働力募集アプリとは	
・アプリ利用求職者の特徴	
・アプリ活用の効果	
2. 産地でのアプリ導入に向けた取組の流れ	4
2-1. 体制構築	5
・産地単位でアプリを導入する意義	
・アプリ導入のための体制づくり	
2-2. 現状把握・対応方針の検討	6
・産地の労働力不足状況の把握	
・アプリ利用求職者の特徴などの把握	
2-3. 利用促進	7
1 農業者向けの対応	7
① 説明会などの開催	7
② アプリを活用可能な品目などの拡大	8
2 求職者向けの対応	9
(参考) アンケート結果	10
① アプリ利用求職者の特徴	10
② アプリ利用求職者がアプリを知ったきっかけ	10
③ アプリ利用求職者が仕事応募時に重視する点など	11
④ アプリを活用して良かった点・不満だった点	12
⑤ アプリ活用時に農業者が工夫した点と求職者の受止め	13

労働力募集アプリを活用して、
人材不足を克服するために



これまで農業生産を支えてきた農村部において、人口減少や高齢化が進んでいることは、みなさまが肌で感じていらっしゃるかと思います。

親族や知人の手伝いなどによる従来の方法では農業現場に必要な人材の確保が難しくなりつつある中、これまで農業に関わりがなかった潜在層を掘り起こし、多様な働き手を確保するための新たな手法の必要性が増しています。

その手法の1つとして挙げられるのが、利用地域が拡大しつつある「労働力募集アプリ」です。積極的に活用している産地では効果も上がっており、これから更なる利用拡大も見込まれます。

そこで今回、**産地における労働力募集アプリの円滑な導入・普及を後押しするため、労働力募集アプリの導入手順や、導入にあたって直面する課題と対応策などをまとめたハンドブックを作成しました。**

本冊子は、主に地方公共団体や農業関係団体などで農業労働力確保を担当されている方を対象にしています。労働力確保のために何か始めたいと考えている方、労働力募集アプリに興味はあるけれども何から始めるべきか分からず困っている方は、ぜひ本冊子をご覧ください、地域の会議などの場でご活用ください。

本冊子が、地域農業の労働力不足解消に向けた取組実施のきっかけになれば幸いです。

1. 労働力募集アプリの概要

\ ポイント /

労働力募集アプリは短期労働力募集ツールで、
農作業経験の少ない利用者が多くを占める傾向

労働力募集アプリとは

1日単位からアルバイト募集可能な短期労働力募集ツール。
近年では、農業分野に特化したアプリの活用も進展。

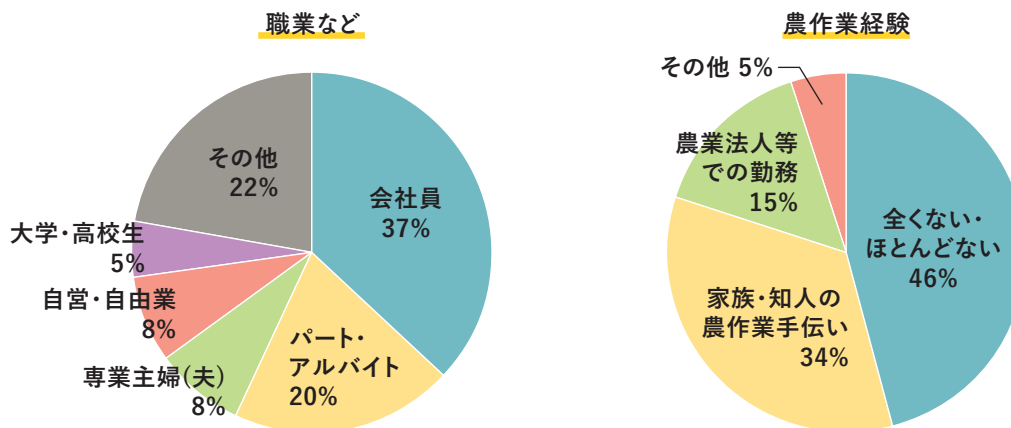
アプリ利用求職者の特徴

1日単位で働ける手軽さから、パート・アルバイトだけでなく会社員の利用も多く、**農作業経験の少ない人が利用者の多くを占める**傾向。
(下図①)

アプリ活用の効果

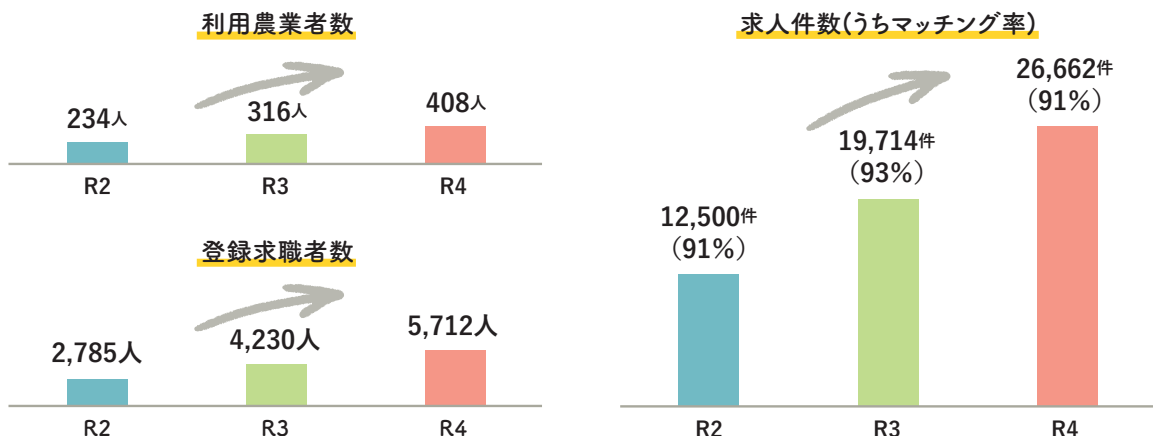
アプリ活用が進んでいる地域では、**利用農業者・求職者ともに年々増加し、マッチング率が9割**に達する事例もあり。(下図②)

① アプリ利用求職者の特徴※1



※1) 農業系労働力募集アプリ2社で行ったアンケート結果

② とちアグリワーク (@北海道十勝地方) におけるアプリ活用実績※2



※2) 各年度における実績(ただし、R4年度はR5.1月末時点の実績)

2. 産地でのアプリ導入に向けた取組の流れ

STEP 1：アプリ導入前の準備

体制構築

🚩 ポイント

- 農業者に対するきめ細かな対応が可能な体制の構築
- 広いエリアをカバーできる体制の構築

現状把握・対応方針の検討

🚩 ポイント

- 産地における各時期の労働力不足状況などを踏まえた対応方針の検討
- アプリ利用求職者の特徴や産地内の求職候補者の分布などを踏まえた広報手段の検討

STEP 2：アプリの導入

STEP 3：アプリ導入後の利用促進

説明会などの開催



🚩 ポイント

- 農作業経験の少ない求職者受入れ時の注意点などに対する理解を促進

アプリを活用可能な品目などの拡大

🚩 ポイント

- 農作業経験の少ない求職者でも実施可能な作業などの洗出しを推進
- スキルを必要とする品目などでもアプリで人材募集できる工夫を検討



🚩 ポイント

- 求職者の多くが農作業経験の少ないことを踏まえた配慮を検討
- さまざまな場面でアプリを活用できる工夫を検討(副業やインターンなど)

アプリの活用状況などを確認しながら、各段階の取組を随時アップデート

2-1. 体制構築

\ ポイント /

アプリ導入の体制構築にあたっては、農業者との距離が近い
地方公共団体や農業関係団体などの参画が重要

産地単位でアプリを導入する意義

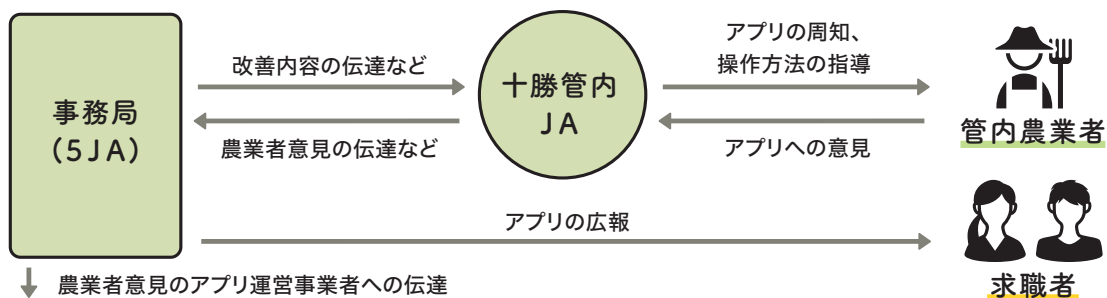
多くの求職者にアプリを活用してもらうためには**多種多様な仕事内容の求人が必要**。
そのため、農業者単位ではなく、**産地単位でアプリ活用を推進**することが効果的。

アプリ導入のための体制づくり

産地でアプリ導入する際の体制づくりにあたっては、
・**農業者への説明・指導などをきめ細かに**行えること
・多くの農業者・求職者に利用してもらえるように**広いエリアをカバー**できること
などが重要なため、**日頃から農業者との接点もある地方公共団体や農業関係団体などが参画**することが望ましい。(下図①・②)

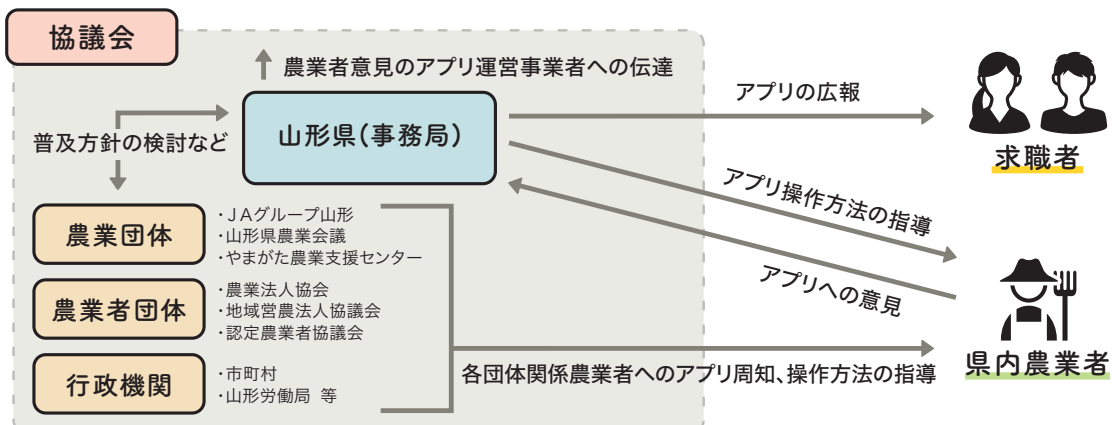
① JA連携型（とちぎアグリワーク）

管内JAを窓口として農業者への指導などをきめ細かにできる体制を構築



② 関係機関連携型（山形県農業労働力確保対策実施協議会）

県内関係機関が連携し、広く県内農業者への周知などを行える体制を構築



2-2. 現状把握・対応方針の検討

\ ポイント /

アプリ導入にあたっては、産地の労働力需給状況などを
しっかりと把握した上で対応方針を検討することが重要

産地の労働力 不足状況の把握

労働力確保に向けた取組の一步目は、産地の労働力不足状況の把握。

労働力が不足する品目・作業内容・必要な労働者数などを把握した上で、
今後の対応方針を検討。(下図①)

アプリ利用求職者の 特徴などの把握

アプリ利用求職者を確保するためには、求職者の特徴などの把握が不可欠。

**求職者の年代別のアプリ認知経路・利用状況や、産地内の求職候補者の
分布などを把握**した上で、効果的な広報手段を検討。(下図②)

① 産地の労働力不足状況の把握・分析

アンケートの実施

月	労働力不足の品目と必要な労働者数			
	地域	品目	作業内容	必要な労働者数
1月		-		0
2月		-		0
3月		-		0
4月	●●市	トマト	栽培管理	150
5月	●●市	トマト	栽培管理	200
6月	●●市	トマト	栽培管	200
7月	●●市、■■市	トマト、スイカ	収穫・選果作業	200
8月	●●市、■■市	トマト、スイカ	収穫・選果作業	150
9月	●●市、	トマト	収穫・選果作業	50
10月				0
11月				0
12月				0

アンケート結果を踏まえた対応方針の検討(例)

求職者向け情報発信の順位付けを検討
(どの品目から農作業説明動画を作成するかなど)

アプリ利用求職者数の把握結果と合わせて分析

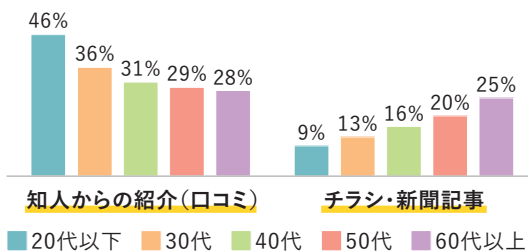
(求職者数に対して十分な仕事量を確保できていない場合)
◆アプリ導入地域の拡大(仕事量増)のために他地域との連携を検討
(求職者数に対して仕事量が過剰な場合)
◆アプリ以外の労働力確保手段の導入を検討

(通年で仕事を確保できていない場合)

◆新規品目(酪農など)・作業の開拓による仕事確保を検討

② アプリ利用求職者の特徴の把握・分析

アプリ利用求職者がアプリを知ったきっかけ*



求職者の特徴を踏まえた対応方針の検討(例)

・各年代(特に20代以下)で口コミの効果が大きい
・チラシ・新聞記事は若い世代ほど効果が小さい

(産地内に大学などがあり、若い年代の利用拡大を見込める場合)

◆大学への重点的な広報に加え、アプリ利用求職者の満足度(口コミの効果)を高めるための方策を検討 など

※農業系労働力募集アプリ2社で行ったアンケート結果

2-3. 利用促進

① 農業者向けの対応 ①（説明会などの開催）

\ ポイント /

アプリ導入にあたっては、農業者に対して、農作業経験の少ない求職者の受入れ時の注意点などを事前によく理解してもらうことが重要

課題

多くの求職者が口コミでアプリを認知しており、**実際に働いた求職者に良い印象を持ってもらう**ことは求職者を新規開拓する上でも重要。(P.6図②)

しかしながら、実際には、**コミュニケーション(作業の説明・指導など)の部分で農業者の意識と求職者の受止め**にズレが生じる傾向。(下図①)

課題への対応

アプリの利用開始にあたっては、農業者に対し、労働者雇用時の注意点に加え、

- ・**アプリ利用求職者の特徴**(農作業経験など)
 - ・**農作業経験の少ない求職者に対して心がけるべき対応**(指導方法など)
- などについても**事前に理解を深めてもらう**ことが重要。(下図②)

① アプリ利用農業者が工夫した点と求職者の受止め※

	農業者が労働者受入れ時に工夫した点	求職者が農業者に改善してほしい点
募集時の仕事内容の設定	①55%	9%
募集時の仕事内容の記載ぶり	34%	④12%
給与水準	②47%	③15%
交通費の支給	26%	①23%
作業時の仕事内容の説明・指導	③42%	12%
作業時の労働者とのコミュニケーション	④41%	⑤12%
トイレと作業場所の位置関係	⑤35%	②17%

※ 農業系労働力募集アプリ2社で行ったアンケート結果(農業者・求職者それぞれにおける上位5つの項目)

② 農業者向け動画の作成 (@北海道十勝地方)

労働者受入れ時の注意点を解説した動画を作成し、トラブル発生を事前に回避



● アプリ利用農業者の声(アプリを利用した感想).....



ピンポイントで人手の足りない日に募集ができるので、とても助かった。

アプリを使う前は、初心者の方が来ることに抵抗があったが、いざ使ってみると作業の説明(P9「求職者向け動画」を利用)はそこまで大変ではなく、熱心な求職者も多くとても感心した。



出典:「十勝アグリワーク」YouTubeチャンネルより <https://www.youtube.com/watch?v=1i8NDKEaTAE>

2-3. 利用促進 ① 農業者向けの対応 ② (アプリを活用可能な品目などの拡大)

\ ポイント /

アプリ利用農業者の拡大に向けては、アプリで人材募集可能な品目や作業などを拡大するための工夫が必要

課題

アプリ導入産地の多くで、農作業経験の少ない求職者に任せられる作業が少ないことを理由に、年間を通じて安定的に求人件数を確保できず、アプリ利用求職者も増えない課題に直面。

課題への対応

求人件数の確保(アプリ利用農業者の拡大) に向けては、
 ・農作業経験の少ない求職者でも実施可能な作業の洗出し(下図①)
 ・スキルを必要とする品目でも、アプリで人材募集できる工夫(下図②)
 などを行うことが必要。

① 作業内容などの分解の推進 (@長野県)

作業内容・時間の分解を奨励し、多種多様な仕事(求人)の確保を推進

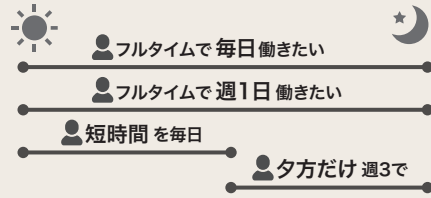
作業内容の分解

農作業経験の少ない求職者でも対応できるように作業内容の分解を奨励



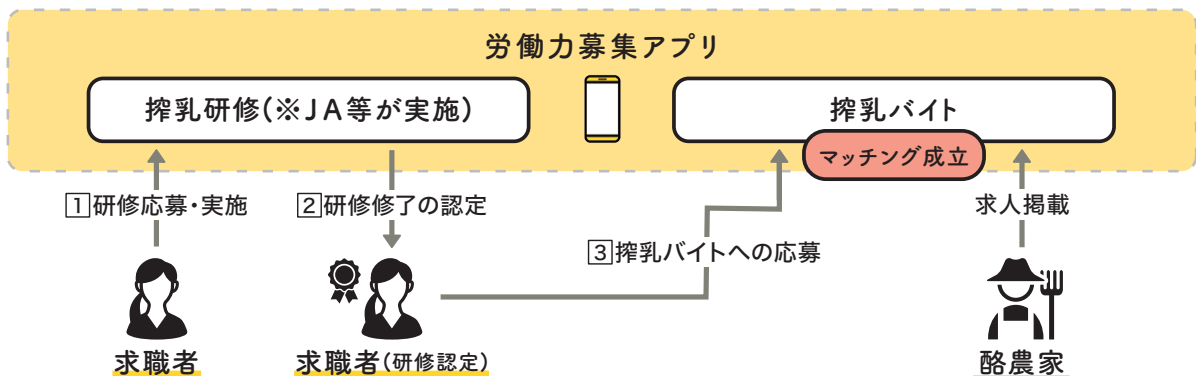
作業時間の分解

求職者の多様な労働ニーズに応えられるように作業時間の分解を奨励



② 搾乳作業バイト研修支援制度 (@北海道十勝地方)

搾乳作業バイトの前に研修参加を必須とすることで、技術を要する作業での求人が可能に(研修～バイトまでアプリで完結)





\ ポイント /

アプリ利用求職者の拡大に向けては、農作業経験の少ない求職者への配慮や、さまざまな場面でアプリを活用できる工夫が必要

課題

アプリ導入産地の多くで、求職者確保の取組がHPやチラシによる広報などに限られ、**アプリ利用求職者数が伸び悩む**課題に直面。

課題への対応

アプリ利用求職者の拡大・求人への応募促進に向けては、
 ・農作業経験の少ない求職者に配慮した**作業紹介動画の作成**(下図①)
 ・**さまざまな場面でアプリを活用できる工夫**(下図②③)
 などを行うことが必要。

① 求職者向け動画の作成 (@北海道十勝地方)

求職者が作業内容・環境などを把握できる紹介動画を作成し、求人への応募を促進



紹介項目(例)

- ①必要な持ち物
- ②作業内容の詳細
- ③休憩時の様子

● アプリ利用求職者の声(アプリを利用した感想)



今回初めての応募でしたが、事前の温かいメッセージで不安なく伺うことができました。



初めての作業でも正しいやり方や効率的な作業方法を指導してくれ、体を気遣ったこまめなお声がけをしてくださり嬉しかったです。他の従業員にもサポートをしていただき頼もしく、話しやすい方ばかりであったという間の一日でした。



出典:「十勝アグリワーク」YouTubeチャンネルより <https://www.youtube.com/watch?v=HTnCQhWJTps>

② 副業制度でのアプリ活用 (@山形県)

やまがたチェリサポ職員制度

公務員の副業での農作業従事にアプリを活用

● 制度を活用した職員の声

- ・ さくらんぼ農家の苦労や大変さを知ることができた。
- ・ 農業に従事することそのものが貴重な体験であった。
- ・ 農家の方から直接感謝されることで、働き甲斐があった。



③ インターン制度でのアプリ活用 (@茨城県)

インターン制度

学生インターンでの農業体験実施にアプリを活用

● 制度を活用したインターン生の声

● はたらいてみて感じたこと

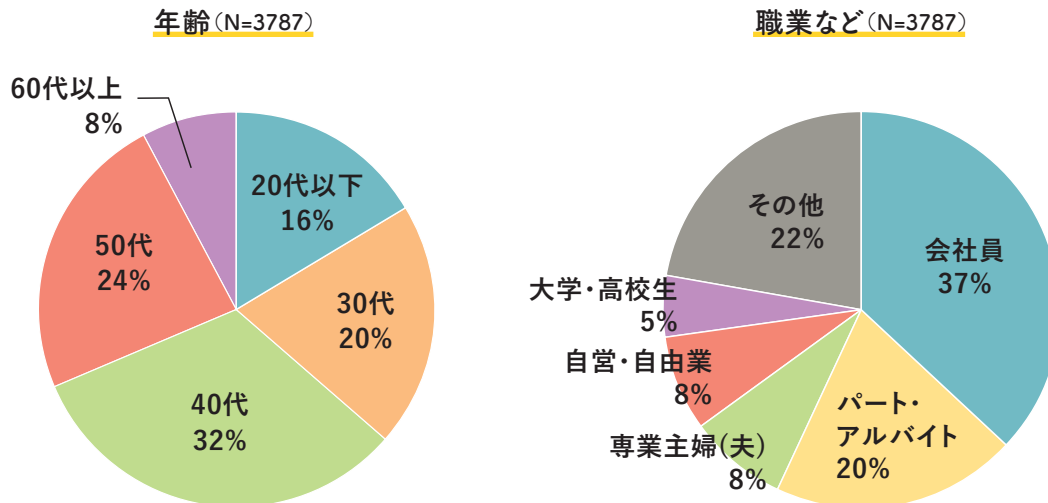
技術面の開発をするのは大学で、その知識を使うのが生産者だと思っていたが、生産者も実験や試行錯誤をしているのを初めて知った。

● 労働力募集アプリを使ってみて感じたこと

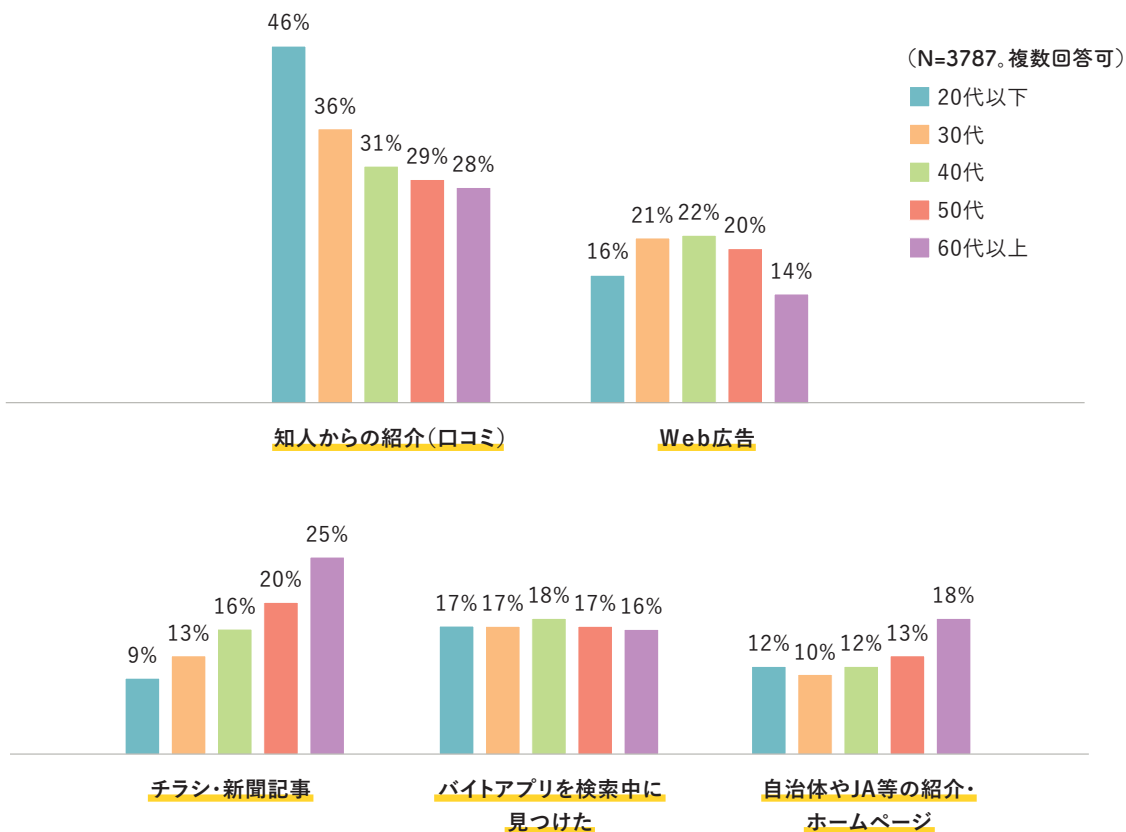
各企業に対して毎回個人情報を入れて手間になるアプリもあるが、今回利用した農業向け募集アプリは最初に個人情報を打ち込んでしまえばあとはボタン一つで予約ができるのは利点。UI※も使いやすく、予約の煩わしさはなかった。(※ユーザーインターフェースの略で、コンピュータなどその利用者の間で情報をやり取りする仕組み)

※ここでは、農業系労働力募集アプリ2社においてアプリ利用農業者・求職者を対象に実施したアンケート結果の概要を掲載します(資料本体でも一部掲載)。ただし、アプリや地域が異なればアプリ利用者の傾向などは異なりますので、あくまでアプリ導入を検討する際の参考としてご活用ください。

参考 アンケート結果①  アプリ利用求職者の特徴

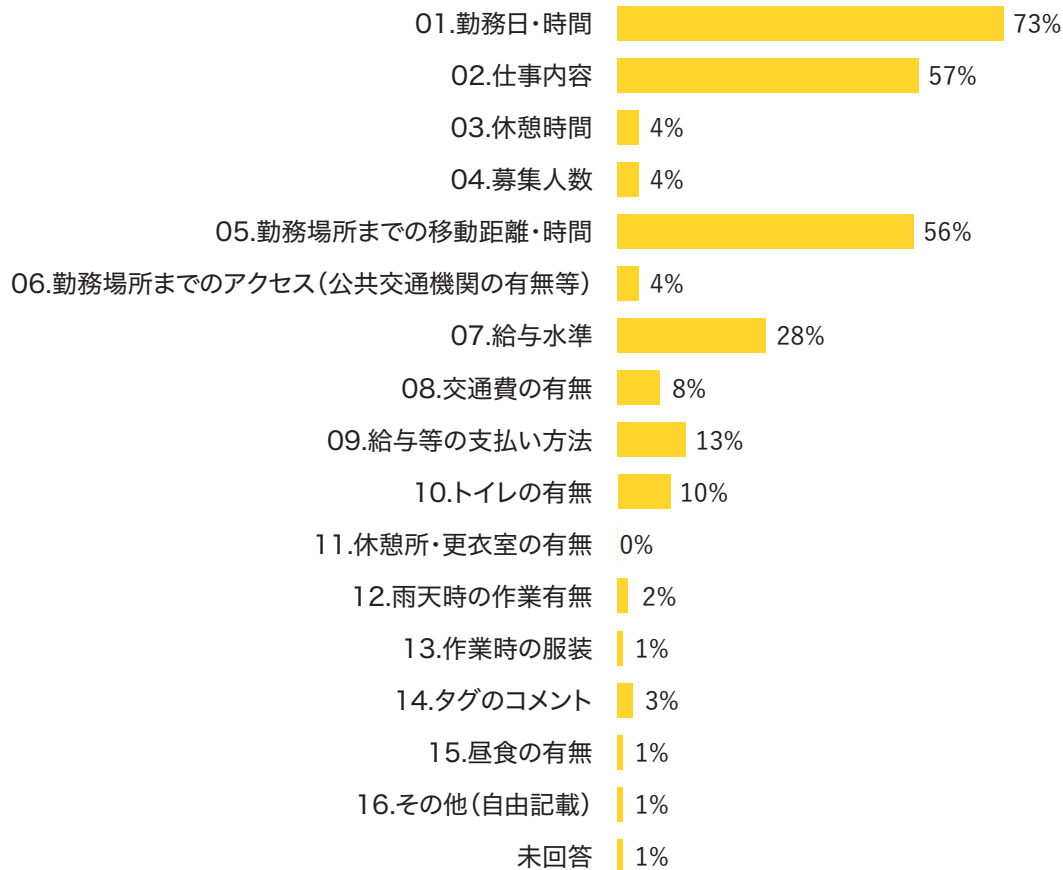


参考 アンケート結果②  アプリ利用求職者がアプリを知ったきっかけ

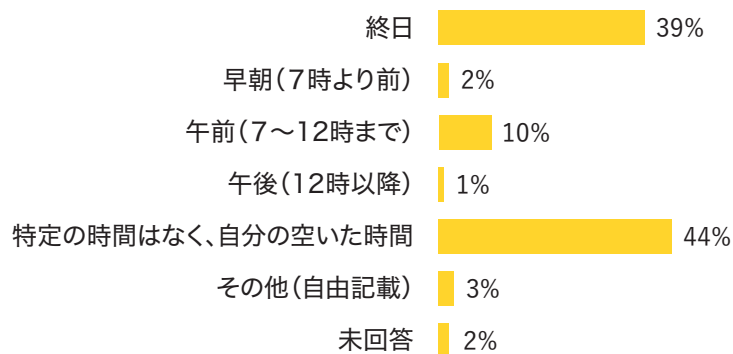


**仕事を応募する際に重視した点**

(N=3787。上位3つまで回答)

**仕事を希望する主な時間帯**

(N=3787)

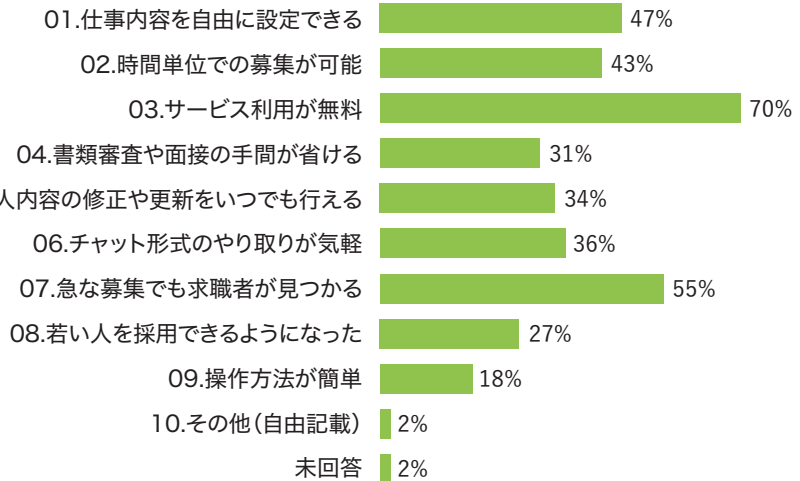


良かった点

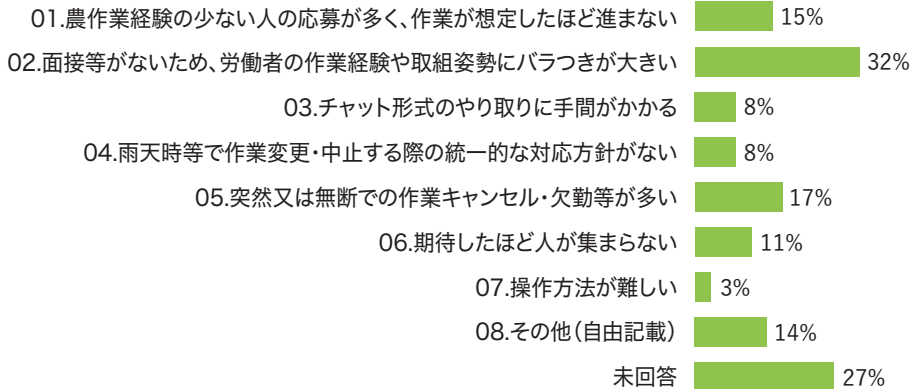


農業者

(N=872。複数回答可)



不満だった点

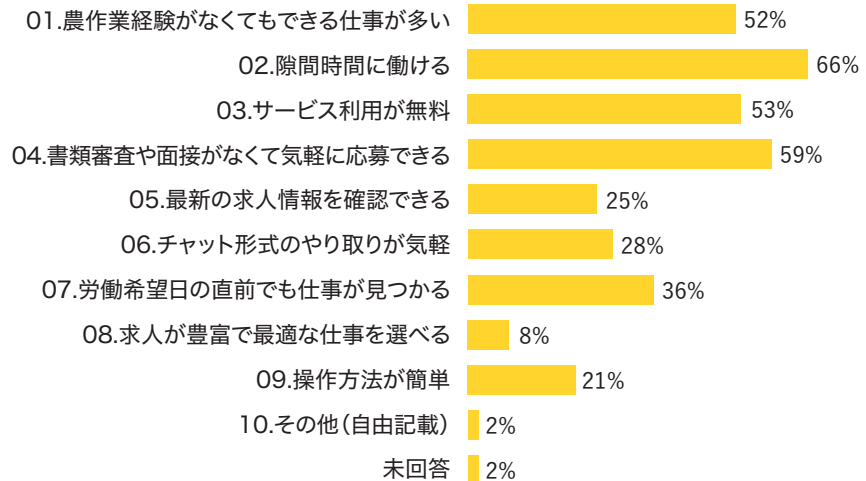


良かった点

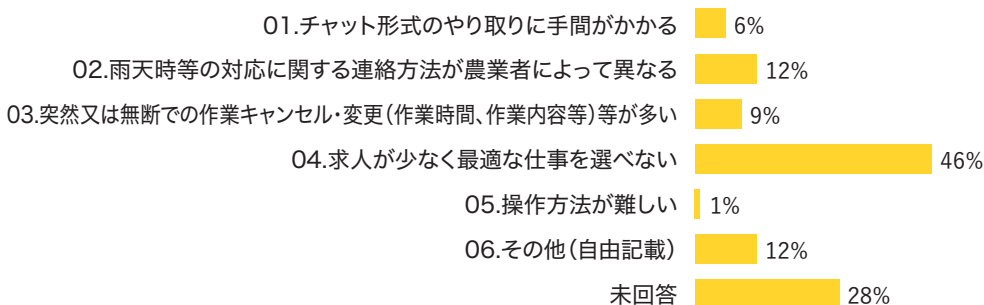


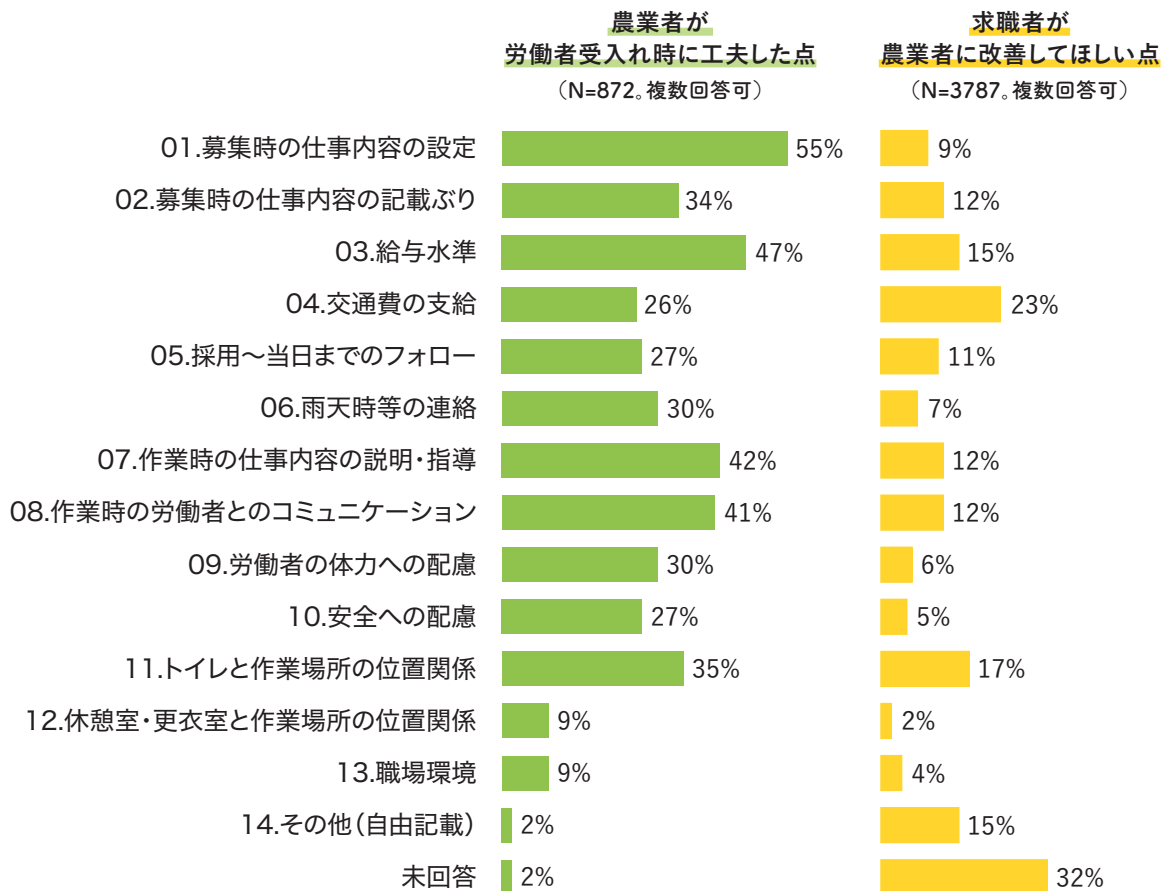
求職者

(N=3787。複数回答可)



不満だった点





✓ 雇用と働き方に関する情報



『農業の「働き方改革」経営者向けガイド』
2018年発行 農林水産省



『農業の「働き方改革」経営者向けガイド実践
ワークブック』2018年発行 農林水産省

